

オンディーヌ

崖を這い上がる波に抱かれ
笛を吹くオンディーヌは
折り重なるような群雲を急き立て
佇む者の傷心をどやしつける

荒々しい風を招き寄せ
己が髪を流れに浸し
嘲笑をもって慰めを与える
ああ、何と狂暴な優しさ

気休めなど誰が求めよう
耳を澄ませば重い海の上を
高く透明に、細い音色が
飛び過ぎてゆく、遙かに・・・

香りなどありもしない、色さえも
灰緑色　　ただひとつ
焦燥も不安も押し潰される
ああ、閉ざされた世界

ああ、閉ざされた世界
孤独と自由が激しく戦う
俺を連れ去ろうと
俺を消し去ろうと

うねりと岩と、そして水
風と葉末と、そして・・・
俺はその狭間に立っていた
笛吹くオンディーヌと語り合いながら

(1985.11.13)